

科技高 いきものの記

Vol.71 2023.3.24

生物教員 佐藤龍平

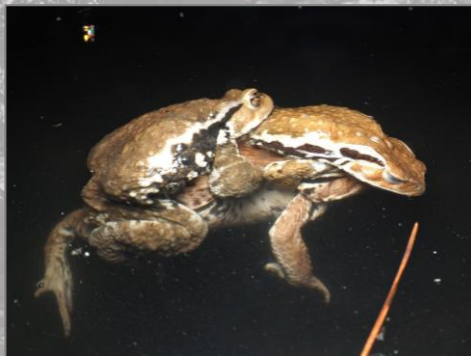
ヒキガエルの繁殖期②

早春の夜のガマ合戦

Vol.70で紹介した通り、2月に猿江公園のヒキガエルの繁殖期の観察を行った。特に今年は、観察3年目にしてついにガマ合戦（オス同士の喧嘩）の**最大ピークの日**に観察することができた！ヒキガエルの繁殖期は1年のうちたったの1週間。しかもガマ合戦が最も激しくなるのはその中の1～2日程度だけ（しかも夜）なのだ。毎日のよう



水中のガマ合戦 何匹もが入り乱れて後から来たオスに蹴りを入れている。



オスの腕がメスの腹にめり込んでいる。人の手で引きはがそうとしてもなかなか取れないくらい強い力で抱きついている。メスは大変だ…。



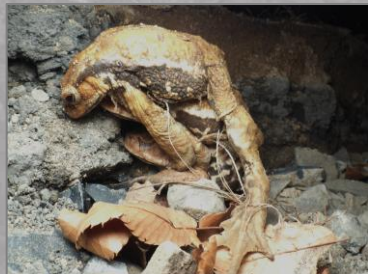
背中側からお腹側からもオスに抱きつかれて途方に暮れた表情のメス

に気象庁のサイトで気温と降水量の推移データと睨めっこしながら、「絶対この日だ！」と踏んでいた日に池に向かうと、水際からパチャパチャッ！と激しい音が聞こえてきた。**うひょーやっぱり今日だー！なんと100匹以上のヒキガエルが池のあちこちで団子状になって入り乱れている！**すごい光景だ。団子の中心にいるのがメスで、その周りでオスたちが抱きつき、蹴り合い、大混乱だ。抱きつかれた側は「放せこの野郎！」と言わんばかりに「コッココッコッ！」と鳴き喚く（リリースコールと呼ぶ。ヒキガエルはゲコゲコとは鳴かない。）。この日の池は、パチャパチャ、コッココッコとかなり騒々しかった。

この光景を何としても見ておきたいと思っていた。というのも、最近知り合ったカエル研究者の長谷先生のお話では、**都内のカエルはどれも深刻な壊滅状態**にあって、もとは数百匹いたのに**ここ数年で姿が消えた**という場所が沢山あるのだそう（葛西臨海公園など）。環境悪化、外来種問題、住民や管理者の意識の問題などが原因のようだ。今、猿江にこれだけの数が残っているのは奇跡的だ。ただ、**今後いつ絶滅してもおかしくない**。この賑やかなガマ合戦が、いつまでも“当たり前の光景”として残ってくれたらいいのになあ。



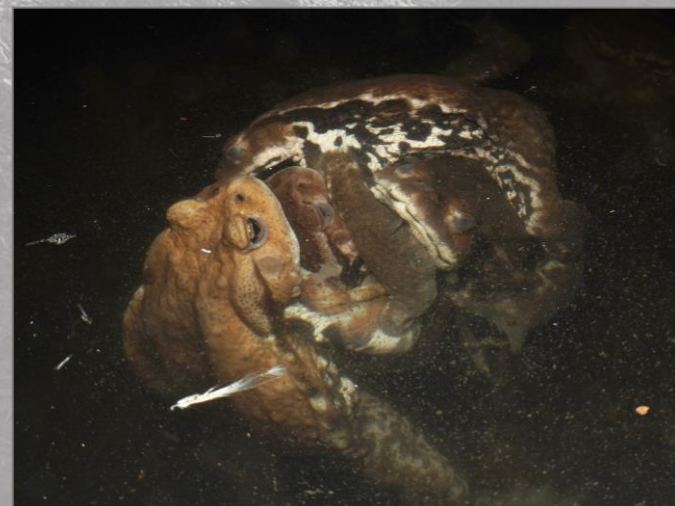
陸上のガマ合戦 逃げるペアと追うオス



後ろから飛び乗った！



後ろ蹴り炸裂！ライバルを追い払った。



ガマ合戦のピークには、池のあちこちでカエル団子ができていた。このままバシャバシャくるくる浮いたり沈んだりしていた。この写真は何匹か分かる？どれがメスか分かるかな？